

Projects 2023

Ongoing Projects



山口駅通りまちなかウォーカブル
推進プロジェクト



大津港周辺
にぎわい創出プロジェクト



びわ湖をのぞむ開放的な空間が魅力的な大津港エリア。今ある空間やコンテンツを活かしつつ、大津市ならではのヒト・モノ・コトの集積を生み出すことで、大津市での暮らしより豊かになり、その暮らしの魅力が顕在化される、さらに多くの市内外の人々を惹きつけるエリアとなることを目指します。



なんば駅周辺
まちづくりプロジェクト



豊田市都心地区広場の
計画・運営プロジェクト



「久御山まちのにわ構想」
プロジェクト



西梅田地区における
エリアマネジメント



姫路・大手前
魅力向上プロジェクト



姫路ウォーカブル
推進プロジェクト



松本城三の丸エリア
プレイスメイキングプロジェクト



気仙沼まちなかエリア
ビジョン推進プロジェクト



あるかぼーと・唐戸エリア
マスタープラン策定プロジェクト



シェアハウス・みかん荘

Award 2023

長門湯本温泉観光まちづくりプロジェクト
「2022年度 計画設計賞」日本都市計画学会
長門湯本温泉 恩湯（おんとう）
「第二回 湯道文化賞」一般社団法人 湯道文化振興会

News 2023

2023年4月1日付で、園田が共同代表に昇任、
山田が取締役に就任しました。
新体制のハートビートプランをこれからもよろしくお願いします。

World Tour 2023



今年の海外研修旅行はイタリアへ。「地域循環」をテーマに20のまちを
巡り32人にインタビュー、帰国後は報告会を開催しました。

Buon giorno! 今年のワールドツアーはイタリアへ。「テリトリオにおける地域循環構造の
説解」をテーマに、各地を巡りました。

イタリアの地域循環構造を一言で表すと、農業振興×観光振興×景観保全を掛け合
わせることで、地域の事業者自らがしっかりと稼ぐと同時に国土管理・農地再生を図り、その
結果新たな価値（人の営み/個性がある状態）を生んでいくというものです。イタリアでイ
メージされる田園風景や豊かな食は、何気ないよう見えて実は、EU/国/州/県/コムーネ
それぞれによるさまざまな分野の施策や取組みの掛け合わせのうえに成り立っていました。

国土面積がほぼ一緒で人口は日本の約半分のイタリア。人口減少する日本のまちに活
かすヒントの一端を掴めたのではないかと思います。



Heart Beat Letter

Have a great new year!

No.3

#2023.12



なんば駅周辺まちづくりプロジェクト
My Heart Beat Dish 心躍る一皿

Heart Beat Letter No.3 #2023.12

なんば駅周辺まちづくりプロジェクト



2023年11月23日(木)、日本有数の繁華街・なんばの駅前に「なんば広場(仮称)」が先行オープンしました。地元商店街の発意で「駅前の道路空間を歩行者天国化したい」と始まったこの取り組みに、ハートビートプランは2011年からコンサルタントとして併走してきました。走り始めて12年、いよいよ広場のオープンに至り、ひとつの節目を迎えたこのプロジェクトについて、担当の泉・岸本・田中が改めて語ります。

なんば広場のオープン、おめでとうございます。このプロジェクトの経緯やハートビートプラン(以下、HBP)の関わりについて聞かせて下さい。まず、HBPが関わり始めたのは2011年頃からですよね?

【泉】2008年から地元発意の歩行者空間化の検討が始まり、なんさん通りの車道を南向き一方通行で残せば、可能性があることが分かった。その本格的な検討のために、地元の27団体が集まって2011年に「なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会」がスタートした。HBPとしてはこの協議会が立ち上がる時に、泉はどうだ、とコンサルタントとして声をかけてもらった。当時は梅田の「グランフロント」や阿倍野の「あべのハルカス」など、大阪市内の他のエリアで大規模開発が進んでいて、なんばが取り残されるのではという危機感が強かったと思う。

2013年には「まちづくり構想(たたき台)」がとりまとめられています。この構想はどのような内容だったのでしょうか?

【泉】なんば駅前を、まちの玄関口として、世界から来る人を受け止めて色々な所に行ってもらう「発地」の場所とするという発想だった。加えてなんばは「歩く」ことに適したまちなみで、人が主役で回遊できるまちを作ろう、そのためには駅前は広場であってほしいという構想で、基本的な考えは今でも全く変わっていないのが凄いことだよ。

国がウォーカブルを提唱して具体的な動きが始まってきたのもここ数年ですね。すでに10年以上前から地元にその発想があったんですね。

【岸本】私はちょうどたたき台が出来た翌年の2014年に入社して、しばらくしてから、なんばのプロジェクトに関わり始めました。

【泉】2014年はプロジェクトとしてはとても重要で、2013年のたたき台構想の後、2014年に大阪商工会議所(以下、大商)が「都市活性化委員会」を立ち上げ、なんば駅前を広場化すべきだと、世間と大阪市に提言してくれた。それを受けて2015年に大阪市が検討会に参画することになり、「なんば駅前広場空間利用検討会」の事務局も大商が務めてくれた。これでなんば広場は大阪全体のため、という機運が高まったね。



このあたりでは、HBPはどのような役割を担っていたのでしょうか?

【泉】まずはビジョンを作り、地元の皆さんとすり合わせていくということ、また実現のための推進体制や役割分担について行政との橋渡しをしてたね。ただHBPだけでは行政は動かないで、大商や学識の方にサポートしてもらつたんだけど、これには水都大阪の繋がりが生きた。2013年は水都大阪パートナーズを立ち上げた時期で、そのメンバーがなんばでもサポートしてくれたな。

この動きから2016年の社会実験に繋がりますね。

【岸本】南向き一方通行の車道を残した状態であれば、広場化しても交通は問題がないというプランでしたが、実際の交通シミュレーションが必要と言うことで、2016年には利活用から交通まで幅広く社会実験を行いました。まあ今思い出す1番のホットトピックは、社会実験予算のうち1,000万円のために申請していた国交省の補助金審査に落ちる!ということだったのですが(笑)

【泉】補助金が出ないとなり、やるかやらないかという厳しい判断になった。会議でも1000万円どうしようって皆シーンになって、社会実験はなくなるかな…という雰囲気だった。でもその時、協議会の会員企業の担当の方が「なんでここまでやって社会実験やらんのや!まずは俺が自分のお金で50万円払う」と言い出して。それを聞いてみんな、うーん、まあそうだよね!という感じになつていって(笑)また南海電鉄の担当の方が、協賛集めに動いて、企業、銀行、自治会、27団体の構成員、あらゆるところに声掛けして、地元側で1,700万円くらい集めたね。

【岸本】結果的には良かったなと思います。皆自分のお金を出すことでプロジェクトが自分ごとになっていった部分がありますね。

【岸本】2016年の社会実験は3日間で、様々な利活用の実験も行いました。この結果、地元の感覚としても、来場者のアンケートの結果でも、ここに必要なのはイベントではなく「憩いの空間」だということに気が付きます。人が来てなんば、というような意見が一般的な中で、なんば全体のために駅前を「憩いの空間」として覚悟するということはとても勇気ある結論だったと思います。

【泉】懸念だった交通の問題も大丈夫だということが実証されたしね。

この社会実験を経て、2017年に基本計画が策定され、2018年には「なんば広場マネジメント法人設立準備委員会」が設立されています。具体的な検討が進み始めたところで、2019年に「交通再編方法の再検討」の話が出てくるわけですね。

【泉】基本計画のプランが警察協議の中では受け入れられなかった。安全確保のための防護柵の設置、警備、時間帯規制の問題などが指摘され、これは地元としては対応出来る内容ではないし、想定している広場とはかけ離れたものになつてしまふ。基本計画のプランで組織作りやランドスケープなどを進めているから、地元の皆さんとしては、今さらなんやねん!となったね。

そこからどう実現可能なプランに変更していくのでしょうか。

【泉】一番の問題は一般車の制限と荷捌き再編だったので、まずはそのメカニズムを理解しようとした。自分たちで、車の停車場所や納品先、時間や頻度など細かくデータを取った。大阪市からも建設局が関わるようになり、膨大な条件を整理・シミュレーションして建設局の担当者と6案のプランを作成した。そのプランの実現のために何をすれば良いのかを洗い出して、地元の皆さんと一緒に動いて、その要件をひとつずつクリアしていった。

1年半かけてプランを練り直したけれど、これによって完全歩行者空間化も可能になり劇的にプランが良くなつた。今では警察様ありがとうございます、という感じ(笑)やっぱり俺も検討が甘かつたんだな、と後になって反省したな。

【田中】私は2020年に入社したんですが、ちょうどこの交通再編の話の時期でした。これらのプラン変更を経て、2021年には2度目の、10日間の社会実験を行いました。1番は荷捌きなどの交通システムの実証、それから滞留空間の創出が目的です。交通システムの検証では16の項目を作りて検証し、一定の課題を解決すれば交通システムが機能することが分かりました。

いよいよ2023年11月23日に広場がオープンしたわけですが、オープン当日の気持ちはいかがでしたか?またこのプロジェクトが社会的にどういう意味やメッセージを持っていると思いますか?

【田中】当日はオープンした瞬間に、一般の人達が広場に散らばって、思い思いに過ごし始めたのが印象的でしたね。

入社した時から、これが世界的なプロジェクトだとは聞いていたのですが、ピンときていませんでした。でも去年のニューヨークへの研修旅行の時に、タイムズスクエアについて調べる中で、なんば広場も同じような時期や経緯で進んでいるのだと実感出来ました。

【岸本】オープン当日は道行く人に「これええやん!」てめっちゃ誉められて嬉しかったですね。それから、駅から出てきた時の風景が全く変わっていて、地元の皆さんが言い続けていたなんばのイメージを変えるってこれだったのか、と実感しました。

社会的意義でいえば本当の意味で「公共空間を市民で獲得する」ということが実現出来たと思っています。なんばの人は会議でも皆発言するし、めちゃくちゃ口を出すんですよ(笑)でも皆が自分ごととしてめっちゃ動いてくれる。

公民連携は民間も行政もそれぞれの働きがかみ合ってこそと思うので、それが実現出来たことは意味があると思います。

【泉】セレモニーでは皆がなんば広場を「自分の広場だ」と思っているのが感慨深かったです。誰かを説得した、お金を出した、会議に出た、ビラを配った、広場のことを伝えたとか、大なり小なり皆何かに関わったからそう思えるんやな。もう今は地元も行政もHBPも運命共同体やしね。

なんばのプロジェクトは「プランニングの民主化」の良い事例だと思ってる。覚悟ある民間が発意し、行政や地域を巻きこんで良い状況に着地させる。そういうことが出来る社会に夢がある。HBPのビジョンである「私のやりたいが、誰かの楽しいになるまちへ」ということだよね。人の妄想を昇華させて、社会の価値へどうジャンプアップさせるか。社会の枠組みを変えたり、コミュニケーションすることでそれを実現していく。このやり方はこれから皆が夢を持てる部分であり、このやり方でしか変えられないものがあると思う。

HBPや個人として貢献出来たところ、HBPらしさが出た部分はどのようなところでしょうか?

【田中】私は地域の人とのやり取りが多い中で、それぞれがプロジェクトのキーとなる部分を持っているなと思いました。だから自分がどうい動きをすれば、皆さんが気持ち良く広場のことに関わってもらえるかと常に考えて動いていましたね。

【岸本】「なんでもおせっかい屋さん」みたいな、HBPらしさが出たと思いますね。さっきの荷捌きの話もそうなんですが、一般的にはコンサルがそこまで踏

み込まても良いじゃないか、という部分でもグイっと一步入ることでプロジェクトが進んだと思う。交通も設計もエリマネも道路協議も全部に対してがつり関われたと思います。

【泉】今回はクライアントが地元で、民間の立ち位置だったのが結果的に良かった。12年も継続して関わることが出来たし、アーバンのように様々な関係者や分野にクロスして関わる立ち位置を取れたね。

役割としては、関係者それぞれの論理と言語がなかなか交わらない中で、何故その発想になるかを理解して、与条件ごと変えるとか、相互の新たな解決策を提案することを重ねて、一歩上の合意形成を実現してこれたかなと。こちらもすごく勉強になつたし、貢献出来た部分かなと思うよ。

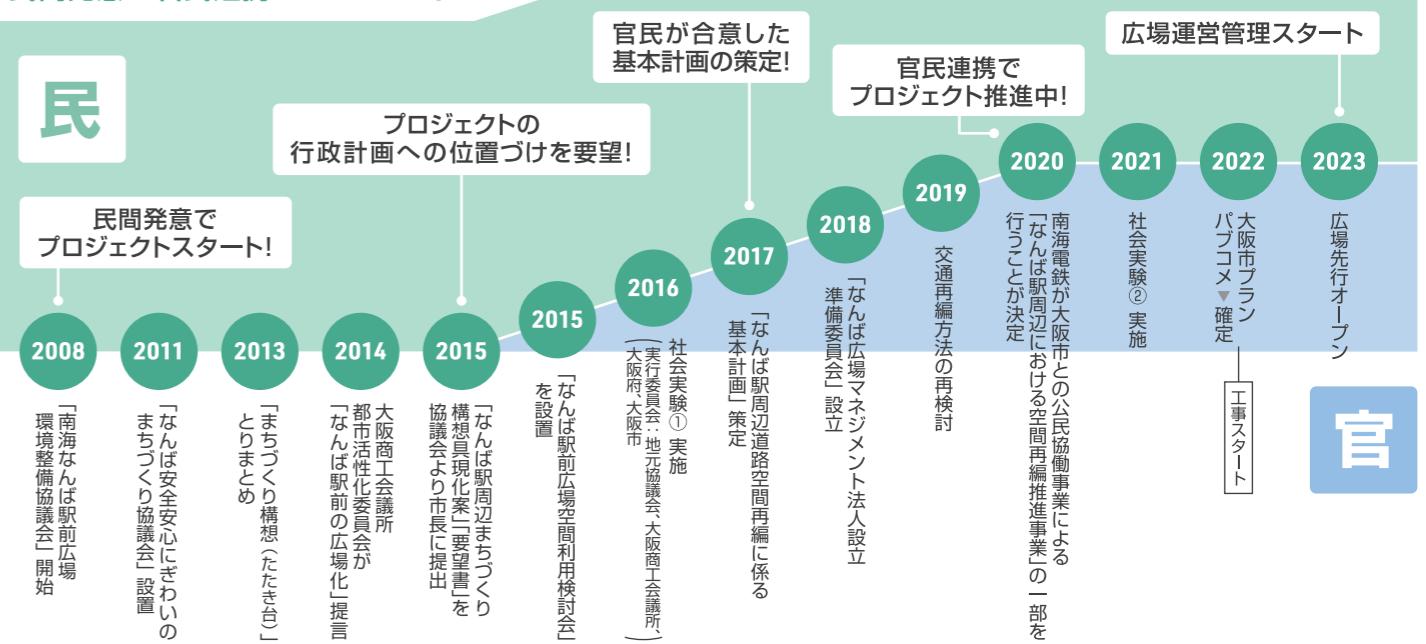
これからなんば広場について、ポイントや目指すところはありますか?

【田中】私はなんば広場のファンを増やしたいです。直接来た人や遠方にいる人でも、好きだから応援したい、という広場であり続けられたならと。そのためには新陳代謝が必要だなと思っています。

【岸本】なんば広場はまちの受け皿になりたいんですが、今はやはり道路であるという制約が大きいです。これをひとつ突破して、広場がまちの新しい文化を受け入れ、新しいことが起こる場所になればいいと思います。また、広場を起点としたまち全体への回遊が生まれることも目指しています。それらが実現すれば、みんなが思い描くなんば広場にまた一歩近づくと思います。

(インタビュー：園田 / 記事執筆：山田)

■ 民間発意 ▶ 官民連携のプロジェクトへ



My Heart Beat Dish

My Heart Beat Dish

心躍る一皿

| 岸本 しおり | 泉 英明 | 有賀 敏直 | 山田 友梨 |
|---|---|--|--|
| 探究のはじまり 食はコミュニケーションだと教えてくれたnoma。あの日から、胃袋を掴む都市戦略家になるための探究(主にフィールドワーク)が始まりました。これからも世界各地へ胃袋を掴まれに行きます。 | なんばのソールフード こんなに美味しい完成度の高いどん屋さんはない!私のイチオシはとり天ぶっかけ。なんばの会食の前には必ずき田たけうどんに滑り込む。休日気分の時には、充実した日本酒レパートリーとうどんのコラボも最高。 | いつものカウンターで カウンターだけの小さな焼き鳥屋だけど、一人で飲める、仲間とワイワイできる、お客様もご来店できる。家族とも楽しめる。知らない人とも仲良くなる傾向的なホスピタリティの店。子どもの誕生日もこのカウンターで。 | 爽やかなフレンチトースト 元気がない時は、谷町六丁目の素朴な商店街を抜けた先にある「山口果物」のフレンチトーストを食べに行く。山盛りのフルーツと甘くしつこりとしたフレンチトースト、果物のソースが爽やかに混ざり合って心身ともに元気になれます。 |
| いつかはメキシコへ 去年から始まったタコスのマイブームは今年も継続中。ブルーマサの粉でトルティーヤをつくり、自家製サルサにカルニータスやアスデーロの仕込みにも挑戦。いつかは本場メキシコへタコスゾーに行きたい! | 煮込む前 やっぱり心が躍るのは塊の肉で、ゆっくり煮込みたいけど、その前に焼き色も付けてみたいと思いながら焼き付けるときがごちそう。油がめっちゃ跳ぶ罪悪感も心を揺さびます。 | 海の不思議 海の幸をたくさんいただいた今年。そんな忘れられない一皿は氣仙沼で生まれた初めて食べた「ホヤ刺」です。恐る恐る口にすると…美味しい。一体何がどうなってこれが育つか?海の不思議、生命の神秘を感じます。 | 気分はイタリア アベリティーボという食事の前に軽く食べ飲みするイタリア文化の代名詞が「スプリッツ」。アペロールをスパークリングワインとソーダで割ったもの。少し苦味がありつつ爽やかで、食欲がどんどん湧いています。留学時代によく飲んでおり、これを飲むと気分はイタリア!ぜひお試しを。 |